

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所グループホームいこいの樹 しらかば		
所在地	標準郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0114210818-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0114210818-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事活動を中心に、利用者様それぞれが役割を持ち、職員と一緒に自らの意思で活動されています。「食」を大切にしており、季節の物を取り入れる等臨機応変に対応し、美味しくそして楽しめるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、住宅街の一角にある広い敷地内に平屋造り2ユニットの医療法人が運営するグループホームで他に医療療養型の病院を中核として居宅介護支援、訪問介護、訪問看護、デイケア、訪問リハビリの介護サービスの事業所を有し、各事業所と連携して安心して地域で暮らせるよう取り組んでいます。事業所の取り組みとして、医療面では、月2回、法人の医師の訪問で体調管理を行い、安心して過ごせるよう支援し、生活面でも楽しみ事が持てるよう日常的に散歩や買い物等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援しており、尾岱沼のエビ祭りやサーモンパーク、開陽の丘のひまわり畑見学等、普段は行けないような場所への外出支援や回転寿司等の外食も行っていきます。法人全体で年間の研修計画を立て職員が研修する機会を作り、勤務調整等で外部研修にも参加できるような体制作りを努めながらケアの質の向上に取り組んでいるホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎月のスタッフ会議で復唱するなど共有に努めています。難しいことはたくさんありますが、これからも、スタッフそれぞれのケアの基本として実践に向けた努力をしていきたいと思っております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者及び職員はスタッフ会議で復唱して振り返る機会を作り、職員はその理念を共有して実践につなげるよう努めている。また、理念をホーム内の見やすい場所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、活動に参加できるようにしています。近隣の保育園などとも交流があり、お散歩の途中に立ち寄ってくれるなどしています。今後は、更にこちらからも交流の機会を作らせていただきたいと思います。	町内会に加入し、地域の清掃等の地域活動や町内の芸術文化祭への出品、地域の保育園の散歩の途中に立ち寄ってもらう等の利用者との交流、ボランティアによる三味線の演奏会やホーム主催の夏祭り地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民後見人養成講座等、研修を受け入れ認知症の方との関わり方等についてお話をさせていただくなどの機会が増えています。これからも、地域の皆様が気軽に相談にいらっしゃれるような、開かれた環境づくりができればと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や取組みについて報告し、ご家族様や近隣の皆様から様々なご意見を頂いています。町の担当者からも助言をいただき、サービス向上に努めています。	運営推進会議は年6回開催し、事業所の活動状況や地域との連携等について家族、地域包括支援センター職員、町の職員、町内会長等をメンバーとして具体的に意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、必要に応じて連絡を取り相談させていただいています。	町担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、必要時には訪問して気軽に意見交換できるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止委員会を開き、話し合いをしています。また、勉強会や研修に参加するなどして、理解を深めるよう努めています。緊急時以外は拘束せず利用者に寄り添い対応するよう努めていますが、防犯の観点から18時から翌朝9時までは玄関の施錠をさせていただいています。	法人研修や内部研修を通じて「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、夜間の防犯目的以外の玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、不適切なケアや虐待につながる行為が無いよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修の参加により学ぶ機会を設けています。また、言葉遣いをお互いにチェックし合うなど毎日のケアの中で注意をはらい、入浴時等には入居者様に怪我やあざがないか等も確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するなどして制度の理解に努めています。今後も必要時の制度活用に向けて理解を深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にはできるだけご家族のご意見ご要望をお聞きするようにしています。また、入居者様のご要望も、普段の会話の中から汲みとる事ができるよう努めています。	毎月の利用料支払い等の家族の来訪時に意見や苦情、要望を聞き取り、家族から意見や要望があれば速やかに話し合って改善に向けて取り組んでおり、結果は速やかに家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の中で職員個々に声掛けし、意見や提案を聞くようにしています。話しやすい環境づくりに努め、出た意見は会議等にて検討し運営に反映させるようにしています。	毎月のユニット会議や日常業務を通じて職員の意見、提案を真摯に受け止め、会議等で検討して運営に活かしている。また、日々の業務の中で日常的に管理者、職員のコミュニケーションを図り、必要時には個別で面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員に声をかけ勤務状況や運営状況について確認するとともに、介護負担の軽減の為、介護用品の用意や環境整備などに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月勉強会を開いており、多種多様な内容の研修を受けることができます。また、各種研修会の案内や研修計画による個々の経験に合わせた研修機会の確保により、職員のスキルアップが図れるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会等での情報交換・交流を図っています。また、地域のグループホーム数件でユニットを作り、合同で研修会を企画するなどの活動も行っています。今後も継続していきたいと思っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やケアマネージャー等から情報をいただくとともに、特に入居後数日は利用者様と接する機会を多く持ち、生活に関する意向を把握し、スタッフ間で共有する事で、できるだけ早く安心してお過ごしいただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した段階から、見学や契約の際または電話等にて困りごとやご要望などゆっくりと時間を取ってお聞きし、不安解消に努めるようにしています。また、気になることがあれば時間を気にせずご連絡いただけるよう声掛けもさせていただいています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から頂いた情報をもとに、利用者様やご家族から伺ったお話の中で、必要な支援を検討するようにしています。また、必要時にはケアマネージャーや法人の相談員とも連携を取り、他のサービス利用も含めた対応ができるようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの特性や興味を把握し、家事活動や畑作業など、できる事・関心のある事への参加の声掛けをし、活動の見守りや必要な支援ができるよう努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、ご家族に普段の生活状況などを伝え、必要に応じて支援の検討をしています。また、自室でゆっくりお話しをしていただくことで、お互いの思いが共有できるよう環境に配慮しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人、友人が訪ねてこられるようにしています。また、行きつけの美容院など、馴染みの場所にも出かけることができるよう努めています。	利用者の生活歴を踏まえ、馴染みのお店や理美容院を利用してこれまでの関係が途切れないよう支援している。また、友人の来訪や電話の取り次ぎ等で関係が途絶えないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	注意深く見守り、関係性により食卓等の席順を検討したり、職員が間に入って会話の橋渡しをするなど関わりのお手伝いをしています。家事活動など自主的な活動がトラブルなく行えるよう、見守り声掛けをしています。また、共同作業やレクリエーション等で交流機会を増やせるよう努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談をお受けしたり、必要に応じたお手伝いができるよう努めています。			

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いが上手く表せない方もいらっしゃるので、普段の行動や表情の変化に注意し、できるだけ利用者様の思いを汲みとり支援できるようにしていきたいと思います。日常に追われ職員本意とならないよう注意していきたいと思います。	センター方式やMDSのシートを活用して家族から生活歴や習慣を聞き取り、一人ひとりの生活する上での希望や意向を確認している。また、日常の会話や表情の中からも本人の思いを把握し、利用者の思いを汲み取ることができるように取り組んでいる。	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用し、利用者様やご家族、ケアマネージャーなどから得た情報をまとめて、スタッフ間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、日常の生活状況などの情報をスタッフ間で共有できるようにしています。また、定期的なモニタリングを行う事でも状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな介護計画書の作成時にはアセスメントやモニタリングで現状と課題を明確にし、利用者様やご家族の意向を踏まえた上で、ユニットでカンファレンスを開き現状に即した支援の検討をしています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式やMDSのアセスメントシートを活用して本人、家族の希望や意向を踏まえて介護計画書を作成している。また、カンファレンスで介護計画に職員の意見やアイデアを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、内容をケース記録に記入し、スタッフ間で情報の共有に努めています。定期的に、また、状態やニーズの変化など必要時には介護計画に見直しも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけだった美容師さんに来所していただき整髪をしたり、病院の受診や各種手続きも利用者様・ご家族より依頼があれば対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや近隣の保育園児の来訪など楽しみが持てるように努めています。また、買い物や外食、季節を感じるイベントなどを企画し、出掛ける機会が作れるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携を取り支援しています。また、ご依頼があれば専門医への受診も対応しています。	母体の医療法人の医師が月2回往診されており、受診はすべて事業所に対応している。利用者、家族の要望があれば専門医等の受診にも柔軟に対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を有しており、法人の医療機関と連携を取り、受診や緊急時の処置が受けられるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、法人の医療機関の相談員とも連携が図れています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには体制上限界があるように感じられますが、その中でどのような支援ができるかを入居者様やご家族と話し合う機会を持ち、理解を得ていきたいと考えています。現在は医療機関の支援を受け対応しています。	本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることを家族に十分説明しながら母体法人の医療機関と連携し利用者・家族とも早い段階から話し合い、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で行っている普通救命講習を全職員が定期的に通っています。また、急変や事故発生時の対応マニュアル等にて周知していますが、今後も訓練機会を設け実践力を付けていきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、災害用の緊急連絡網や自動で連絡を回す緊急通報システムも設置しており、向かいに住んでおられる町内会役員の方にも加わっていただいています。また、非常食の確保にも努めています。	消防署の協力を得ながら、年2回日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、地域住民の参加協力も呼び掛けており、火災や地震等の不測の事態に備えた連携・協力体制が築けるよう取り組んでいる。また、自動火災報知機と火災通報装置との連動するシステムも整備している。	今後は地域の方の避難訓練への参加を増やし、連携して地域との協力体制を築けるよう取り組みを検討しているので、その実践に期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いについては、親しみと混同しやすい事を念頭に置き、スタッフ間で注意し合うようにしています。また、日常の中でも個人の尊厳を大切に捉え、カンファレンス等で協議を重ね、対応を検討しています。	記録などの個人情報の扱いは十分に注意して取り扱っている。また、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねない言葉かけや接遇を心掛けており、職員会議でのカンファレンスや日常的に話し合い、適切な対応を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せる方ばかりではないので、表情や動作に注意し、自己決定の手助けができるような言葉掛けや場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	無理に日課に合わせるのではなく、好きなどころで好きな事をして過ごすことを大切にしています。食事の時間についても衛生面で許される範囲で延食のご希望もお受けしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその日の洋服を選んだり、整髪のお手伝いをしています。毎月理容師さんに訪問のお願いをし、美容院や化粧品、洋服の購入にも出掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の状態や体調に合わせて、職員と一緒に調理や配膳、食事、片付けをしていただいています。誕生日にはその方のリクエストにお応えするなど、楽しい食卓を心掛けています。	利用者と一緒に準備、食事、片付けを行っており、献立は利用者の好みや希望をメニューに反映させている。また、一人ひとりの体調に合わせて調理方法を工夫しており、回転ずしやレストラン等の外食も行い、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や病状に合わせて、主治医と相談しながら栄養バランスに注意して調理しています。また、必要に応じて刻みやトロミ付け、食器の工夫などをするとともに、お好みの飲み物を用意するなどして、摂取量にも注意しながらおすすめしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、必要に応じて仕上げ磨きなどの支援もしますが、中々させて下さらない方もいます。口腔内のトラブルが見られた時は、歯科受診等迅速に対応するように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常の関わりの中でそれぞれの排泄パターンや排泄動作を把握し、自立に向け、声掛けの工夫や低刺激・低コストで済むような最低限の排泄用品の検討をご本人ご家族と相談しながら行っています。	一人ひとりの力や習慣を活かして排泄のチェック表で排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。また、排泄用品は出来る限り素材やコストで利用者や家族の負担軽減が図れるよう相談しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘予防に配慮し、支援しています。ヨーグルトや乳酸菌飲料も用意しています。排便チェックにより便秘の状態を把握し、必要に応じて医師と相談し、処方薬の検討も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	夜間浴も行っており、体調に問題が無ければ毎日でも希望に沿った曜日や時間帯に入浴できるよう努めていますが、全員のご希望通りと言うわけにはいかないのが現状です。今後も努力していきたいと思えます。	本人のその日の希望や体調を考慮しながら、週2回を目安に入浴できるよう支援している。また、夜間浴等の時間帯や回数の希望、生活習慣に応じられるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動の促しや環境の整備により、休息や安眠が確保できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で服薬内容を把握しており、症状の変化が見られるときは主治医と相談しています。また、服薬時には飲み間違いのないように注意し、しっかり飲み込んだかどうか確認をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意な事やこれまでやってきた事、好きな事などを把握し、役割や楽しみにつなげられるよう心掛けています。気分転換に好きな事をさせていただく時間ができるように考えています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望にすぐに応えられるわけではないが、可能な限り本人の意思や希望に添えるよう努めている。買い物や展示会などへ職員と出掛けたり、ご家族と外食に行かれたりしている方もいらっしゃいます。	日常的に散歩や買い物等、一人ひとりのその日の希望に沿って出来る限り戸外に出かけられるように支援している。また、尾岱沼のエビ祭りやサーモンパーク、開陽の丘のひまわり畑見学等、普段は行けないような場所への支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常費として個々のお財布を金庫にてお預かりしており、買い物の際などには持って出掛けています。手元に置きたいという方には、ご家族と相談し考えられる危険性を説明した上で支援するようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話を掛けたり、手紙を出すお手伝いをしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は木目と白を基調とした優しい雰囲気になっており、中庭から自然な風と光が入ります。空調にも注意し、暖房も環境に配慮したものになっています。また、居間などにその時々飾りや花などを置いて、季節を感じていただけるようにしています。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。室内の温度や湿度にも十分配慮し、過ごしやすい環境を整えている。また、共用部分には花を飾ったり、壁には寄贈を受けた利用者の絵画や日常生活や行事の際の写真等を掲示して居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は別になっており、思い思いにお過ごしいただいています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ使い慣れた物を持ってきていただくよう説明をして、安心して居心地よくお過ごしいただけるよう配慮しています。ご家族と一緒に撮った写真や曾孫さんが書いた絵などを飾っていらっしゃる方もいます。	居室の入り口には、職員手作りの表札が掲げられ、入居時には本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具を持参してもらい、家族の写真や思い出の品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレなどの目印や家具の配置など、利用者様の状態変化に合わせて都度検討し、できるだけ困りごとなく日常生活が営めるよう配慮しています。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所グループホームいこいの樹 はるにれ		
所在地	標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyoSyCd=0114210818-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyoSyCd=0114210818-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の状態は様々ですが、互いの存在を認め合い、それぞれのペースで共同生活を営まれています。関わりの中から思いを汲みとり、ゆったりとした支援ができるよう心掛けています。高齢の方も多く活動には限りがありますが、できるだけ楽しい時間を過ごしていただけるよう考えています。近隣には保育所もあり、散歩途中の子供たちが手を振っていくのを楽しみにしている方もいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎月のスタッフ会議で復唱するなど共有に努めています。難しいことはたくさんありますが、これからも、スタッフそれぞれのケアの基本として実践に向けた努力をしていきたいと思っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、活動に参加できるようにしています。近隣の保育園などとも交流があり、お散歩の途中に立ち寄ってくれるなどしています。今後は、更にこちらからも交流の機会を作らせていただきたいと思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民後見人養成講座等、研修を受け入れ認知症の方との関わり方等についてお話をさせていただくなどの機会が増えています。これからも、地域の皆様が気軽に相談にいらっしゃれるような、開かれた環境づくりができればと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や取り組みについて報告し、ご家族様や近隣の皆様から様々なご意見を頂いています。町の担当者からも助言をいただき、サービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、必要に応じて連絡を取り相談させていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止委員会を開き、話し合いをしています。また、勉強会や研修に参加するなどして、理解を深めるよう努めています。緊急時以外は拘束せず利用者に寄り添い対応するよう努めていますが、防犯の観点から18時から翌朝9時までは玄関の施錠をさせていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修の参加により学ぶ機会を設けています。また、言葉遣いをお互いにチェックし合うなど毎日のケアの中で注意をはらい、入浴時等には入居者様に怪我やあざがないか等も確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するなどして制度の理解に努めています。今後も必要時の制度活用に向けて理解を深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にはできるだけご家族のご意見ご要望をお聞きするようにしています。また、入居者様のご要望も、普段の会話の中から汲みとる事ができるよう努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の中で職員個々に声掛けし、意見や提案を聞くようにしています。話しやすい環境づくりに努め、出た意見は会議等にて検討し運営に反映させるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員に声をかけ勤務状況や運営状況について確認するとともに、介護負担の軽減の為、介護用品の用意や環境整備などに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月勉強会を開いており、多種多様な内容の研修を受けることができます。また、各種研修会の案内や研修計画による個々の経験に合わせた研修機会の確保により、職員のスキルアップが図れるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会等での情報交換・交流を図っています。また、地域のグループホーム数件でユニットを作り、合同で研修会を企画するなどの活動も行っています。今後も継続していきたいと思っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やケアマネージャー等から情報をいただくとともに、特に入居後数日は利用者様と接する機会を多く持ち、生活に関する意向を把握し、スタッフ間で共有する事で、できるだけ早く安心してお過ごしいただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した段階から、見学や契約の際または電話等にて困りごとやご要望などゆっくりと時間を取ってお聞きし、不安解消に努めるようにしています。また、気になることがあれば時間を気にせずご連絡いただけるよう声掛けもさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から頂いた情報をもとに、利用者様やご家族から伺ったお話の中で、必要な支援を検討するようにしています。また、必要時にはケアマネージャーや法人の相談員とも連携を取り、他のサービス利用も含めた対応ができるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの特性や興味を把握し、家事活動や畑作業など、できる事・関心のある事への参加の声掛けをし、活動の見守りや必要な支援ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、ご家族に普段の生活状況などを伝え、必要に応じて支援の検討をしています。また、自室でゆっくりお話しをしていただくことで、お互いの思いが共有できるよう環境に配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人、友人が訪ねてこられるようにしています。また、行きつけの美容院など、馴染みの場所にも出かけることができるよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	注意深く見守り、関係性により食卓等の席順を検討したり、職員が間に入って会話の橋渡しをするなど関わりのお手伝いをしています。家事活動など自主的な活動がトラブルなく行えるよう、見守り声掛けをしています。また、共同作業やレクリエーション等で交流機会を増やせるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談をお受けしたり、必要に応じたお手伝いができるよう努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いが上手く表せない方もいらっしゃるため、普段の行動や表情の変化に注意し、できるだけ利用者様の思いを汲みとり支援できるようにしていきたいと思えます。日常に追われ職員本意とならないよう注意していきたいと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用し、利用者様やご家族、ケアマネージャーなどから得た情報をまとめて、スタッフ間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、日常の生活状況などの情報をスタッフ間で共有できるようにしています。また、定期的なモニタリングを行う事でも状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな介護計画書の作成時にはアセスメントやモニタリングで現状と課題を明確にし、利用者様やご家族の意向を踏まえた上で、ユニットでカンファレンスを開き現状に即した支援の検討をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、内容をケース記録に記入し、スタッフ間で情報の共有に努めています。定期的に、また、状態やニーズの変化など必要時には介護計画に見直しも行っていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけだった美容師さんに来所していただき整髪をしたり、病院の受診や各種手続きも利用者様・ご家族より依頼があれば対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや近隣の保育園児の来訪など楽しみが持てるように努めています。また、買い物や外食、季節を感じるイベントなどを企画し、出掛ける機会が作れるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携を取り支援しています。また、ご依頼があれば専門医への受診も対応しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を有しており、法人の医療機関と連携を取り、受診や緊急時の処置が受けられるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、法人の医療機関の相談員とも連携が図れています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには体制上限界があるように感じられますが、その中でどのような支援ができるかを入居者様やご家族と話し合う機会を持ち、理解を得ていきたいと考えています。現在は医療機関の支援を受け対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で行っている普通救命講習を全職員が定期的に受講しています。また、急変や事故発生時の対応もマニュアル等にて周知していますが、今後も訓練機会を設け実践力を付けていきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、災害用の緊急連絡網や自動で連絡を回す緊急通報システムも設置しており、向かいに住んでおられる町内会役員の方にも加わっていただいています。また、非常食の確保にも努めています。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いについては、親しみと混同しやすい事を念頭に置き、スタッフ間で注意し合うようにしています。また、日常の中でも個人の尊厳を大切に捉え、カンファレンス等で協議を重ね、対応を検討しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せる方ばかりではないので、表情や動作に注意し、自己決定の手助けができるような言葉掛けや場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	無理に日課に合わせるのではなく、好きなところで好きな事をして過ごすことを大切にしています。食事の時間についても衛生面で許される範囲で延食のご希望もお受けしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその日の洋服を選んだり、整髪のお手伝いをしています。毎月理容師さんに訪問のお願いをし、美容院や化粧品、洋服の購入にも出掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の状態や体調に合わせて、職員と一緒に調理や配膳、食事、片付けをしていただいています。誕生日にはその方のリクエストにお応えするなど、楽しい食卓を心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や病状に合わせて、主治医と相談しながら栄養バランスに注意して調理しています。また、必要に応じて刻みやトロミ付け、食器の工夫などをするとともに、お好みの飲み物を用意するなどして、摂取量にも注意しながらおすすめしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、必要に応じて仕上げ磨きなどの支援もしますが、中々させて下さらない方もいます。口腔内のトラブルが見られた時は、歯科受診等迅速に対応するように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常の関わりの中でそれぞれの排泄パターンや排泄動作を把握し、自立に向け、声掛けの工夫や低刺激・低コストで済むような最低限の排泄用品の検討をご本人ご家族と相談しながら行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘予防に配慮し、支援しています。ヨーグルトや乳酸菌飲料も用意しています。排便チェックにより便秘の状態を把握し、必要に応じて医師と相談し、処方薬の検討も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	夜間浴も行っており、体調に問題が無ければ毎日でも希望に沿った曜日や時間帯に入浴できるよう努めていますが、全員のご希望通りと言うわけにはいかないのが現状です。今後も努力していきたいと思います。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動の促しや環境の整備により、休息や安眠が確保できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で服薬内容を把握しており、症状の変化が見られるときは主治医と相談しています。また、服薬時には飲み間違いのないように注意し、しっかり飲み込んだかどうか確認をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意な事やこれまでやってきた事、好きな事などを把握し、役割や楽しみにつなげられるよう心掛けています。気分転換に好きな事をさせていただく時間ができるように考えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望にすぐに応えられるわけではないが、可能な限り本人の意思や希望に添えるよう努めています。買い物や展示会などへ職員と出掛けたり、ご家族と外食に行かれたりしている方もいらっしゃいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常費として個々のお財布を金庫にてお預かりしており、買い物の際などには持って出掛けています。手元に置きたいという方には、ご家族と相談し考えられる危険性を説明した上で支援するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話を掛けたり、手紙を出すお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は木目と白を基調とした優しい雰囲気になっており、中庭から自然な風と光が入ります。空調にも注意し、暖房も環境に配慮したものになっています。また、居間などにその時々飾りや花などを置いて、季節を感じていただけるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は別になっており、思い思いにお過ごしいただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ使い慣れた物を持ってきていただくよう説明をして、安心して居心地よくお過ごしいただけるよう配慮しています。ご家族と一緒に撮った写真や曾孫さんが書いた絵などを飾っていらっしゃる方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレなどの目印や家具の配置など、利用者様の状態変化に合わせて都度検討し、できるだけ困りごとなく日常生活が営めるよう配慮しています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームいこいの樹

作成日: 平成 28年 3月 28日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	処遇に対する職員の不満が時々聞かれます。介護に対するモチベーションの低下やストレスから虐待に繋がる危険性もあると危惧しています。	給与面の見直しの検討。職員数や雇用形態の見直しによる有給取得率の向上。職員のストレスチェックとカウンセリング。	処遇改善加算算定への取り組み。人員確保への働きかけ。法人でのストレスチェックと相談機会の確保。	12カ月
2	36	一人ひとりの人格の尊重、その人らしさの追求がまだ十分でないように思います。言葉掛けやトイレ誘導の際などについて配慮に欠けてしまう事があります。	複数のツールを利用したアセスメントの強化と共有。タイプに合わせたアプローチ方法の検討とその統一。不適切な声掛けや支援に対する職員間のチェック体制の強化。	計画作成者への時間配分の増加。スタッフが気付いたことをアセスメントに書き加えられる仕組みをつくる。スタッフのコミュニケーションの強化。言いやすい関係づくりへの取り組み。	12カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。